

(別記)

令和3年度上富良野町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

農家戸数の減少や農業経営の規模拡大、複合経営が進む中で、農業従事者の高齢化、後継者不足などによる農業労働力の減少が進んでいる。このような状況の中で、持続的な農業の発展を図っていくためには、効率的で安定的な農業経営を目指し、地域農業を支える優れた担い手の育成・確保が必要とされる。

また、湿害による収量減少が当該地域で問題となっていることから、心土破碎等の湿害対策を実施することにより、収量、品質の安定・向上、作付面積の拡大を図る。また、町内の約720haの水田について、産地交付金を有効に活用しながら、作物の維持・拡大を図る。

そのほか、農業者の減少・高齢化が進む中、農地中間管理機構制度等を活用し、担い手への農地の集積と集約化を加速化し、農業の生産性向上を図る。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

上富良野町は富良野盆地という山に囲まれた地形による内陸性気候が特徴の地域である。この地域は年間を通しての気温差が大きいため、その寒暖差を活かしたじゃがいもやメロン、スイートコーンなどの高収益作物が多く栽培されている。今後はこの気候条件を活かした作物選択の推進や、富良野地域としてのブランド力強化による付加価値の向上等に取り組み、地域全体として、より一層農業の推進に取り組んでゆく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

現在、水田の基盤整備が行われており、事業終了後には農業者にとって耕作しやすい農地となる予定であることから、水稻の作付面積を維持していく。毎年、作付内容については聞き取りにて確認しており、今後の水稻作付動向によっては、主食用米以外についても適宜作付けに取り組むこととする。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

生産の目安を最大限に活用し、需要に応じた安定供給できる水田機能の維持と生産力の確保を図る。

(2) 備蓄米

今後の水稻作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米：今後の水稻作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。

イ 米粉用米：今後の水稻作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。

ウ 新市場開拓用米：今後の水稻作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。

エ WCS用米：今後の水稻作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。

オ 加工用米：今後の水稻作付動向を考慮し、適宜作付に取り組む。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、多収で障害や病虫害に強く、高品質な品種を育成するとともに、適切な施肥、栽培管理、適期収穫を行い、単収及び品質の向上を図る。

飼料作物については、安定生産・安定供給を図ることとし、効率的な生産体系の確立を図る。

(5) そば、なたね

現状、作付計画はないが、今後は生産者の意向をふまえ、適宜取り組みを実施する。

(6) 高収益作物

地域振興作物として位置づけ、産地交付金と水田リノベーション事業を活用し、作付面積の拡大を図る。

また、高収益作物の作付けに対して、農業経営の維持及び農業所得の向上を図る農業者へ助成する。

(7) てん菜、馬鈴しょ

近年、湿害によるてん菜及び馬鈴しょの収量減少が当該地域で問題となっていることから、心土破碎の湿害対策を実施することにより、収量、品質の安定・向上、作付面積の拡大を図る。

(8) 小豆、菜豆、えん豆

多収で障害や病虫害に強く、高品質な品種を育成するとともに、適切な施肥、栽培管理、適期収穫を行い、単収及び品質の向上を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	717.2	747.9	706.9
備蓄米	0	0	0
飼料用米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	3.1	3.3
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
麦	364.1	364.1	366.2
大豆	183.1	183.1	184.3
飼料作物	196.6	196.6	213.0
・子実用とうもろこし	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
高収益作物	196.2	196.2	229.7
・野菜	189.2	189.2	221.2
・花き・花木	5.9	5.9	6.9
・果樹	1.1	1.1	1.6
・その他の高収益作物	0	0	0
その他	64.5	64.5	113.0
てん菜	31.5	31.5	48.5
小豆	26.1	26.1	57.0
菜豆	6.9	6.9	7.5
畑地化	0	0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	
			前年度(実績)	目標値
1	春小麦・大豆	透・排水性対策助成	付面積 単収(春小麦) 単収(大豆)	(R2年度) 317.6ha (R2年度) 311kg/10a (R2年度) 168kg/10a (R5年度) 319.4ha (R5年度) 313kg/10a (R5年度) 246kg/10a
2	秋小麦	透・排水性対策助成	作付面積 単収	(R2年度) 229.6ha (R2年度) 425kg/10a (R5年度) 231.1ha (R5年度) 440kg/10a
3	馬鈴しょ (生食用・加工用・種子用)	透・排水性対策助成	作付面積 単収	(R2年度) 41.8ha (R2年度) 3,475g/10a (R5年度) 42.3ha (R5年度) 4,300kg/10a
4	小豆・菜豆・えん豆	透・排水性対策助成	作付面積 単収	(R2年度) 33.0ha (R2年度) 150kg/10a (R5年度) 33.5ha (R5年度) 220kg/10a
5	野菜	高収益作物助成	作付面積	(R2年度) 147.4ha (R5年度) 178.9ha
6	花き、果樹、花木	高収益作物助成	作付面積	(R2年度) 7ha (R5年度) 8.5ha

7	飼料作物(WCS用稲、 飼料用米を除く。)	飼料作物団地化 助成	作付面積 取組面積 集積率	(R2年度) 196.5ha (R2年度) 85.9ha (R2年度) 43.7%	(R5年度) 213.0ha (R5年度) 94.0ha (R5年度) 44.1%
8	てん菜	透・排水性対策 助成	作付面積 単収	(R2年度) 31.4ha (R2年度) 6,433kg/10a	(R5年度) 48.5ha (R5年度) 6,600kg/10a
9	新市場開拓用米	新市場開拓用米 作付助成	作付面積 単収	(R2年度) 0ha (R2年度) 0kg/10a	(R5年度) 3.3ha (R5年度) 556kg/10a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。